

戦評用紙

第 1 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子 ・ (女子)	対戦名 青葉小ミニバスケットボール育成会 VS	清瀬バスケットボールクラブ

第 1 クォーター

開始 1 分 30 秒、互いに硬さがとれずに得点が入らない。先制したのは清瀬。 がミドルシュートを決める。青葉は、 の速攻・ミドルシュート、 の連続ドリブリンで一気にリズムを掴む。清瀬も がシュートを試みるが得点に繋がらない。清瀬は残り 1 分を切り、 フリースロー、 速攻で得点をを加えるが、青葉も残り 30 秒に の力強いリバウンドからのシュートが決まって 13 対 8 と、青葉リードで第 1 Q が終了。

(13 — 8)

第 2 クォーター

青葉は のジャンプシュートから連続 3 ゴールが決まり、突き放しにかかる。一方清瀬はオフェンスがリズムに乗れず、残り 3 分でタイムアウトを請求。清瀬は再開後、 のリバウンドの頑張りでチームがリズムに乗り の連続シュートで追い上げる。青葉は のジャンプシュートで加点。前半を 21 対 12 で、青葉リードが 9 点リードで終る。

(8 — 4)

第 3 クォーター

後半開始早々、清瀬は のジャンプシュートが決まるが、青葉も のゴール下ファールからのフリースロー ミドルシュートと連続して得点を重ねる。清瀬は前半同様シュートを放つが、リングに嫌われ得点とならない。青葉のリズムで展開する中、残り 1 分清瀬は のゴール下から得点して反撃する。青葉は、終了間際に のジャンプシュートで加点し 13 点差をつける。

(12 — 8)

第 4 クォーター

最終 Q、開始早々清瀬 のジャンプシュート、青葉 のドライブインで互いに得点を上げる。粘る清瀬は ミドルシュート、 ゴール下シュートで加点、8 点差に追い上げ試合は盛り上がる。しかし青葉は勝負ところで冷静に、 がディフェンスの裏をとる速攻とジャンプシュートで得点を重ねて快勝。決勝へと勝ち進む。

(12 — 11)

チーム名 得点

青葉小 45

得点 チーム名

31 清瀬

記入者名

小島一俊

所属

北フーブ・ストア MBC

戦評用紙

第 2 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子 ・ 女子	対戦名 住吉ミニバスケットボールクラブ VS 南台ミニバスケットボールクラブ	

第1クォーター

ジャンプボールは南台、住吉はオールコートマンツーマン、南台は広い2-1-2のゾーン。大きな南台に対し住吉はディフェンスの動きがよく、パスカットからの連続ゴール。南台は のミドルシュートで得点。パスを回してインサイドのセンターに繋いで攻める住吉に対し、南台は外からのシュートを打つがリングに嫌われる。住吉は2度目のリバウンドとルーズボールをとり、ディフェンスもがんばる。しかし南台のゾーンも動きがよく住吉のドライブは止められて簡単に得点出来ない。残り1分、住吉9-2南台から南台 のバスケットカウント住吉9-4南台。しかしフリースローは入らず。逆にリバウンドからパスを回し、住吉 がロングシュートのブザービーター。

(11 — 4)

第2クォーター

住吉ボールでスタート。体格はほぼ同等。ディフェンスは共に1Qと同じ。住吉は引き続きパス回しから時間を使って攻め、南台は速いドリブルで攻める。住吉はルーズボールに飛びついてオフェンス、ディフェンスのリバウンドのこぼれ球を押える。しかし南台 の鋭いドライブにはファールで対応せざるを得ず、南台 がフリースローで点をつめていく。お互いのディフェンスがよく、フィールドゴールがなく一進一退。残り3分、住吉13-9南台。ここで南台がタイムアウト。南台ボールで再開後、 が速いドリブルからロングシュートすかさず住吉 がゴール下で返す。南台は速いボール運びからロングシュートを打つがリバウンド、ルーズボールを住吉に取られる。しかし住吉も速攻を決められず、第2Q終了。

(4 — 7)

第3クォーター

南台ボールでスタート。リバウンドから住吉 が得点。南台 のドライブに住吉 が4つ目のファール。南台 がフリースローを2本決める。南台は1-2-1-1のゾンプレスから2-1-2のゾーン。リバウンドも取れるようになり、速攻も出て加点していく。残り3分、 のミドルシュートで19-19の同点。住吉のパスが乱れ、カットから南台 のミドルシュートで逆点。住吉19-21南台。南台はプレスディフェンスを続け4ファールとなる。残り2:41、住吉 のフリースローで住吉21-20南台。ここで住吉 がファールアウト。住吉 と交代。南台 のゴール下のファールで住吉 がフリースローを2本決め再度逆点。すぐに南台 のドライブ。住吉は速いパス回しから住吉 につなぐが、3Qの南台は中が大きくリバウンドを取れない。逆に南台 のミドルショット、ゴール下で差が開く。残り15秒で住吉22-27南台。しかし残り5秒住吉 がポストプレーで得点。

(9 — 16)

第4クォーター

住吉ボールでスタート。住吉は広く攻め、住吉 を中心にリバウンドを頑張る。住吉 、 が1本ずつフリースローを決め、住吉26-27南台。南台はゾンプレスを続け南台 が3つ目のファール。住吉もオールコートのマンツーマンをタイトにする展開で、共にファールがかさむ。残り4:30、南台 が4つ目のファール。南台はチームファールも4つだが、ディフェンスのあたりは緩めない。残り4分、住吉 のロングシュートが決まり住吉28-27南台。残り2:35、住吉 のシュートにファール。フリースローが2本とも決まり住吉30-27南台。住吉のディフェンスがさらにきつくなり、南台はボールが運びにくくなる。残り2:30、住吉も4ファール。リバウンドから住吉 が速攻を決めるとすぐに南台 がミドルで応酬。住吉は速いパス回しが続くが南台もリバウンドから速い攻め。残り49秒、南台 のロングシュートで住吉32-31南台。続いて南台 がドライブで逆点。住吉32-33南台。しかし住吉は速いボール運びから残り10秒、住吉 がポストプレーで再逆転。更に残り5秒、住吉 がパスカットからロングシュートのブザービーターでタイムアップ。住吉36-33南台。

(12 — 6)

チーム名 得点

住 吉 36

得点 チーム名

33 南 台

記入者名

平林 昭二

所属

アンリミテツズ

戦評用紙

第 3 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子・女子	対戦名 マジックミニバスケットボールクラブ VS	宮城ミニバスケットボールクラブ

第1クォーター

マジックは六年生を中心とした体格に恵まれ、宮城は低学年を含んだ小粒だがスピード勝負の両チームの戦い。マジック、宮城のジャンプボールでスタート。マジックは にボールを集めてシュートに繋げる。宮城は を中心にボールを回す戦法。マジックは と のコンビネーションが良く、チーム全体も良く声を出し試合流れも一方的な展開となる。 から につないでシュート、リバウンドを が絡み、この三人が上手にゲームを運ぶ。宮城は残り1分半でカットインから得点を上げた の得点だけに止まる。

(11 — 2)

第2クォーター

マジックは小さく守るゾーンディフェンス。宮城は外から期をみてシュートを打つ。残り3分までマジックは、 のドリブルシュート、 のリバウンドからの外角シュートと連続で得点を重ねる。残り30秒で宮城 のミドルシュート、ファールからのカウント1スローなど、フリースロー絡みで宮城が7点連続追い上げて前半を終了。宮城が追い上げるがマジックが12点リード。

(10 — 7)

第3クォーター

マジックは前半活躍した上級生が中心でスタート。開始3分近くまでマジックが、前半同様自分達のリズムで試合を支配する。後がない宮城は、 が奮闘。ミドルシュート、ボールカットからのドリブルシュートで、マジックを追い上げて試合を盛り上げ、この試合の山を迎え9点差とする。更に宮城は、 のゴール下、 のロングシュートを決めて5点差に迫る。宮城の追い上げにマジックはゾーンを固め、宮城の追い上げを防いだ。宮城は最終Qに7点差の逆転を賭ける。

(12 — 17)

第4クォーター

第3Qに息を吹き返した宮城は、底力を発揮し逆転に期待を持たせたが、スタート早々にマジック にゴール下シュートを決められ勢いをそがれる。ゾーンを必死に固めるマジックと、外角からシュートに頼る宮城だが中々得点に繋がらない。残り3分まで互いに一進一退の展開で、ファールが重なる状態が続く。互いに決め手を欠く中でマジック がリバウンド、ドリブルシュートからの得点を重ねる。更にリバウンドの頑張りからファールをもらいフリースローと、独り舞台の活躍をみせ宮城を突き放す。最後は互いに意地のぶつかり合いとなるが、マジックが宮城の堅い守りを崩して勝利。宮城は体格では劣ったが、スピードに乗った個人技と、豊富な練習量からの正確なシュートをみせた好チームであった。

(14 — 7)

チーム名 得点

マジック 47

得点 チーム名

33 宮城

記入者名

塚本 篤

所属

日野サンズ

戦評用紙

第 4 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子・女子	対戦名 本宿バスケットボールクラブ VS 辰巳バスケットボールクラブ	

第1クォーター

本宿・辰巳共に、マンツーマンディフェンスで始まる。辰巳 のミドルシュートで先制するも、本宿は のドライブで対抗。辰巳 フリースローを落ち着いて2本とも決め、辰巳2点リードする。本宿は が連続でミドルシュートを決め逆点。両チーム共にターンオーバーが多く、オフェンスのリズムが噛み合わず得点が伸びない。残り2分19秒、10対6と本宿が4点リード。その後本宿はオフェンスのパスが回り始めてリズムを掴み出しシュートも決まり始める。 がドライブから辰巳のファールを誘い、カウント1スローを落ち着いて決める。辰巳は単調なシュートが多く、長身のプレーヤーを活かせず第1Qを終了。

(15 — 6)

第2クォーター

本宿ボールでスタート。両チームは第1Qと同じでマンツーマンディフェンスで仕掛け、オフェンスがリズムに乗れずシュートが決まらない。互いにリバウンドを頑張り、次第にボールが展開し始める。辰巳 フリースローを2本決めリズムに乗りかけるが、ターンオーバーからの失点を重ねる。試合は一進一退の展開で進み、残り2分28秒本宿が4点リードが詰まらない。本宿トラベリング、辰巳はターンオーバーで得点が伸びないまま本宿6点リードで2Qが終了。

(10 — 13)

第3クォーター

両チーム共に、オールコートマンツーマンでスタートする。辰巳のボールが前半同様に上手く回らず、逆に本宿のボールが回り始めて連続で得点を重ねる。辰巳も個人技と体格で が得点する。残り3分25秒、本宿9点リード。その後本宿 連続で得点するも、辰巳も のミドルシュートで対抗。さらに本宿は を中心に速攻を決め辰巳を圧倒する。本宿のテンポ良い攻撃に対し、体格で勝る辰巳はミドルシュートが多く長身を活かしきれない。終盤は辰巳のパスミスから得点を重ね、第3Qだけでも10点差をつける。

(23 — 13)

第4クォーター

最終Qに入り両チーム共に、プレスマンツーマンで仕掛ける。本宿は上手くパスを回して展開するが、辰巳はプレスに掛り攻撃のリズムに乗れず長身を活かせないままゲームが進行。残り4分16秒、本宿が22点と大量リードとなる。辰巳は残り時間が少なくなる中で と連続で得点を重ねて追いつがる。残り3分半、攻守に頑張りを見せていた辰巳 が、痛恨の5ファールとなり退場となる。更に辰巳は がリバウンドからシュート、 もミドルシュートと追い上げる。残り時間が1分、本宿が最後まで粘りを見せてディフェンスを頑張り、辰巳のシュートミスを誘って逃げ切り決勝に進出。対格差を活かせなかった辰巳には悔いが残る試合となった。

(20 — 18)

チーム名 得点

本宿 68

得点 チーム名

50 辰巳

記入者名

坂田 康治

所属

高松ミニバス

戦評用紙

第 5 試合

東京都ミニバスケットボール連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子 ・ 女子	対戦名 青葉小ミニバスケットボール育成会 VS	住吉ミニバスケットボールクラブ

第1クォーター

お互い権利のある全国大会出場を掛けた女子決勝戦。
 センタージャンプ後住吉が先行で始まる。住吉は青葉 を 2 人でマークする変則的なディフェンスを展開し
 にオフェンスリズムを狂わすプレッシャーをかける。その仕掛けに対して青葉はあくまでも を中心とした
 オフェンスに終始するも、やはりうまく機能せずなかなか得点があげられない。
 しかし住吉もオールコートディフェンスを頑張る青葉に対してシュートまでなかなか行かれず、
 青葉 2 点、住吉 4 点のスコアで 1 Q が終了。

(2 — 4)

第2クォーター

このQも住吉が専制する。青葉のドリブルアップにたいして住吉はダブルチームを仕掛ける。
 青葉は 1 Q 同様にオールコートディフェンスを展開する。
 しかしなかなかオフェンスのリズムが掴めず、開始 1 分 1 5 秒で青葉がタイムアウトをとり、
 建て直しを計る。タイムアウト後徐々にリズムを掴みだし、青葉が 1 0 対 8 と逆転する。
 ここで住吉もタイムアウトを請求。
 タイムアウト後も青葉優勢な流れは変わらず青葉 3 点リードで前半が終了。

(15 — 10)

第3クォーター

住吉ボールで後半開始。このQ初ゴールは青葉が決める。その後もオールコートのプレスで守る青葉が
 3 連続で得点する。住吉もアウトサイドのシュートを決め応戦し、同じようにオールコートのプレスで
 ディフェンスを頑張り青葉に流れかけたリズムを徐々にとりもどし の 3 連続シュートが決まり、
 白熱した展開が続いた。
 住吉は 4 ファールとなり青葉にフリースローを与えてしまう。
 一進一退のまま青葉 6 点リードで 3 Q が終了。

(15 — 12)

第4クォーター

青葉のスローインでスタート。青葉が先行したが住吉も 2 連続で得点し互角の流れは変わらない。
 攻守交代しながらお互い得点を取り、残り 3 : 4 5 で青葉 1 0 点リードとなり、住吉がタイムアウト。
 タイムアウト後もお互い激しい攻防を繰り広げるが、青葉 8 点リードでタイムアップ。
 青葉は 2 年ぶりにこの大会を制し、全国大会出場の切符を手に入れた。
 敗れはしたものの、住吉も青葉をよく研究して試合に臨み最後まで王者青葉を苦しみ、
 決勝戦にふさわしい好ゲームだった。

(12 — 10)

チーム名	得点	[得点	チーム名	記入者名
青葉小	44		17 — 14	36	住吉
-----				-----	所属
					恩方ミニバス

戦評用紙

第 6 試合

東京都ミバ`スケツポ`-ル連盟 広報委員会

第13回鈴木正三杯ウインターナショナル大会	開催日 平成22年1月24日(日)	会場 郷土の森総合体育館
男子・女子	対戦名 マジックミバ`スケツポ`-ルクラブ VS 本宿ミバ`スケツポ`-ルクラブ	

第1クォーター

2年連続の大会優勝を目指すマジックと関東大会1位リーグ2位の辰巳を破り決勝進出を果たした本宿との対戦。トスアップは本宿がキープしてゲームは始まった。お互いオールコートマンツーマンを展開する。マジックのドライブイン、のゴール下、本宿はのドライブインで得点して行く。開始2分、本宿のドライブインがマジックのファールを誘いカウントワンスローも決め4-5とする。お互い激しくターンオーバーを繰り返す。残り1:41でマジックが4ファール。中盤マジックはシュートまで行かれないオフェンスが続いたが残り1分を切ってからが連続ポイントをあげ12-11のマジック1点リードで1Q終了。

(12 — 11)

第2クォーター

本宿ボールでスタート。ディフェンスはお互い1Qと同じ。マジックは速い展開からのシュートが連続で決まり、徐々に得点差がつき始める。このQ本宿は今一歩攻め手がなく、アウトサイドシュートを放つもリングに嫌われ、そのリバウンドボールをマジックが高さを活かして支配し素早いアウトレットパスから速攻を繰り返し得点を重ねていく。本宿は開始3:40でこのQ初ゴールを決めるのが精一杯だった。終始マジックが押し気味にゲームを進め2Qが終了。

(17 — 10)

第3クォーター

お互いベストの3Qは本宿ボールでスタート。マジックはゾーンプレスで守る。攻守交替しながら開始1分、本宿のシュートが決まる。マジックはリズムの良いディフェンスを繰り返して、速いオフェンスに持ち込みの速攻で小気味良く得点を重ねていく。開始2:30でマジック15点リードとなる。本宿は2Q同様にオフェンスリズムを掴む事が出来ない時間が続く。マジックはプレッシャーの強いディフェンスを行っているため、どうしてもファールがかさみ残り2:10で4ファールとなった。本宿はフリースローを得るも2投目を落としリバウンドをマジックに奪われ、マジックの速い攻めで得点されてしまう流れで3Qが終了。

(20 — 10)

第4クォーター

マジックボールでスタート。マジックは引き続き良いリズムでディフェンス・オフェンスを行い連続して得点して行く。本宿はのインサイドプレイを仕掛け始めたが思うように決まらない。開始3:00、57-35とマジックが大きくリードする。このQも終始マジックペースは変わらなかった。その後もマジック優勢の流れは変わらずタイムアップ。多彩なディフェンスを繰り返して、速い展開のオフェンスに持ち込み確実に得点を重ねて行ったマジックが2年連続でこの大会を制した。敗れはしたものの本宿は準優勝となり、全国大会出場を決めた。全国大会では東京代表として本来の元気溢れるバスケットボールを発揮してきて欲しい。

(16 — 6)

チーム名	得点	得点	チーム名	記入者名
マジック	65	29 — 21 36 — 16	本宿	戸田 重孝
				所属
				N.Cベアーズ